



公益社団法人
日本美術教育連合
ニュース

No.133

2011.9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮坂元裕

ニュース担当 北川智久

E-Mail : kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

災害対策としての美術教育の役割

公益社団法人日本美術教育連合理事・研究局長 山口喜雄

東日本大震災への復興事業がようやく軌道にのりはじめた2011年8月25日に発生した大型の強い台風12号は各地で記録的豪雨を引き起こし、9月4日奈良県上北山村の累計雨量は2433mmに達しました。その凄さは、Web (<http://nocs.myvnc.com/study/uonzuwld.htm>) に公開された気象庁データ30年間(1981~2010年)の平年値における世界主要都市の年間降水量と比べると一目瞭然です。ちなみに、最少はカイロの35mmで、アテネ375mm、北京534mm、キャンベラ587mm、ロンドン775mm、そして最多のニューヨークが1145mmでした。何と、ニューヨークの2年分、北京の4年半分の雨量がわずか1週間に降った計算になります。想像を絶する被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

地震や台風などの災害対策は、科学技術に頼らざるを得ないと一般的には考えられています。では、私たち美術教育関係者には何ができるのでしょうか。

中学1年生宛の「美術を学ぶ人へ」という一文で彫刻家の佐藤忠良(1912~2011)が次のように記述しています。「科学をもとに発達した科学技術が、私たちの日常生活の環境を変えていきます。ただ、私たちの生活は、事実を知るだけでは成り立ちません。好きだとかきらいだとか、美しいとかみにくいとか、ものに対して感ずる心があります。これはだれもが同じに感ずるものではありません。しかし、こういった感ずる心は、人間が生きていくのにとっても大切です。だれもが認める知識と同じに、どうしても必要なものです。詩や音楽や美術や演劇——芸術は、こうした心が生み出したものといえましょう。この芸術というものは、科学技術とちがって、環境を変えることができないものです。しかし、その環境に対する心を変えることはできるのです。詩や絵に感動した心は環境にふりまわされるのではなく、自主的に環境に対面できるようになるのです。(現代美術社、1981年)」

図画工作・美術の授業で「自主的に環境に対面できる」感動を培う実践、その実践を支える美術教育研究という営為が、時代や社会状況に対応する斯界の役割とも考えられます。10月16日(日)東京家政大学で開催の〈第45回日本美術教育研究発表会 2011:参加費無料〉への積極的なご参加をお願い申し上げます。

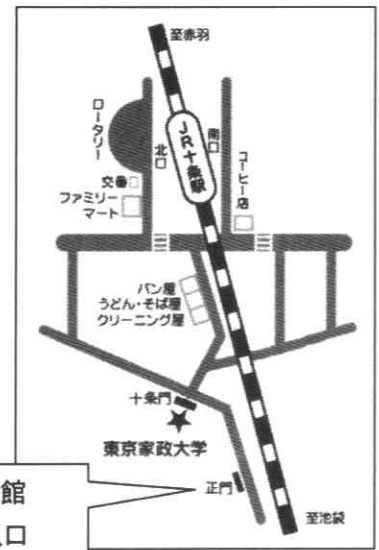
第45回 日本美術教育研究発表会 2011 案内

1. 期 日 2011(平成23)年10月16日(日) 午前9時30分受付~午後16時30分閉会
2. 会 場 東京家政大学 120周年記念館 [〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1]
3. 主 催 公益社団法人 日本美術教育連合 (InSEA-JAPAN)
4. 後 援 文 部 科 学 省

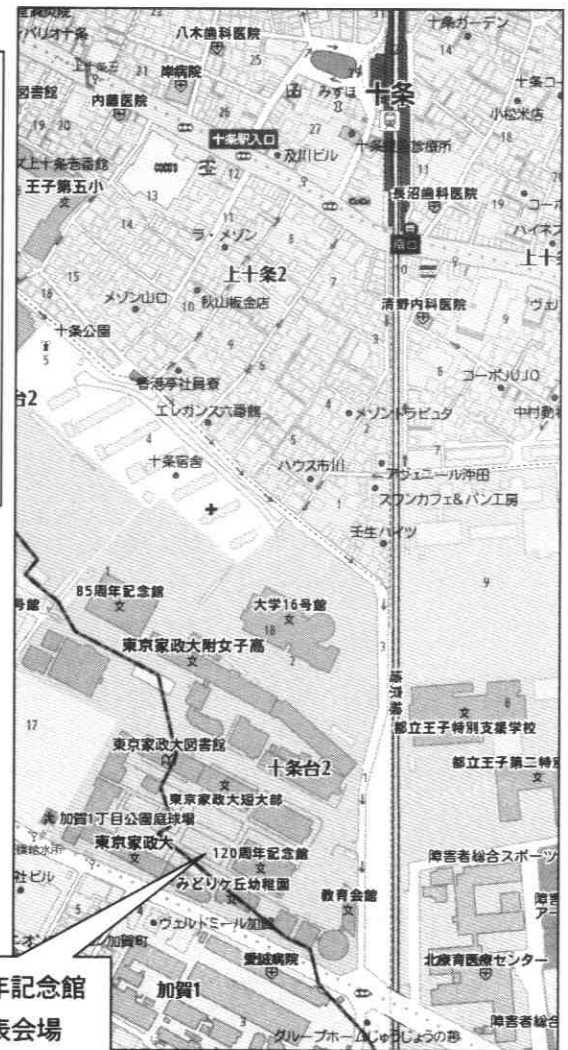
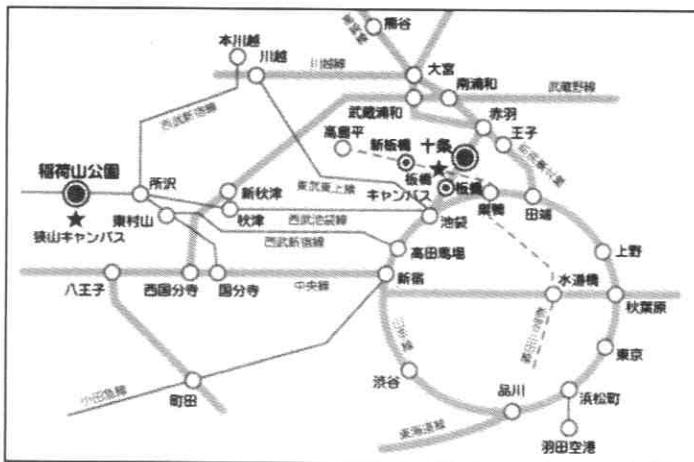
(2ページの関連記事詳細をご参照ください)

研究局より 第45回 日本美術教育研究発表会 2011 (最終案内)

- 主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合
(InSEA-JAPAN)
- 後 援： 文部科学省
- 開催日時： 平成23(2011)年
10月16日(日) 9時～16時30分
- 会 場：http://www.tokyo-kasei.ac.jp/campus/guide/ca_itabashi.html
東京家政大学 120周年記念館
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
- 【重要】 当日、同大学が入試のため正門のみ入場可です。
- アクセス： JR 埼京線十条駅下車徒歩 5分
JR 埼京線板橋駅下車徒歩 17分
都営三田線新板橋駅下車徒歩 12分



案内図 ★板橋キャンパス正門から入場



- 参加資格： 会員以外の方でも参加できます。
参加費は無料、事前申し込みも不要です。
お誘い合わせの上、ご参加下さい。
- 昼 食： 各自ご持参、または近隣食事処ご利用。
- 問合せ先： 研究局長 [事前・事後]
山口喜雄 宇都宮大学
TEL&FAX 028(649)5364
nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- 開催大学 [当日のみ]
結城孝雄 東京家政大学
携帯電話 090-2387-6094

120周年記念館
★発表会場

第45回 日本美術教育研究発表会 2011

平成23(2011)年10月16日(日)

会場 東京家政大学 120周年記念館

主催 公益社団法人日本美術教育連合

後援 文部科学省

本部：120-3D教室 研究発表者控室：120-3B教室

時間	発表会場 A 120-2C 教室 (定員 250名)	発表会場 B 120-2B 教室 (定員 120名)	発表会場 C 120-2A 教室 (定員 80名)
9:30	受付(当日、場所を1階に掲示します) 凡例：●DLP=データプロジェクター(HD-D-Sub15ピン対応)、▲VHS=VHSビデオモニター		
9:45	開会式(発表会場 A) ■スライド=スライドプロジェクター、実映機=実物投影機、□=使用せず		
9:55 (移動)	発表会場 A	発表会場 B	発表会場 C
10:00	フランス芸術教育の現状と課題 — IUFMの調査から 東京家政大学 A1 結城孝雄 ●DLP	自分の背景画を描くワークショップ 川口短期大学 B1 木谷安憲 ●DLP	対話型鑑賞プログラムにおける小中学生の言語表現の傾向 —水戸芸術館あーとパス2011の取り組みから 筑波大学 C1 林剛人丸 ●DLP
10:25 (移動)	東京家政大学	川口短期大学	筑波大学
10:30	幼児の図形の見立てと「顔」の結びつき 和洋女子大学 A2 島田由紀子 ●DLP	美術科教育におけるコンピュータ上の色彩の問題点 小城市牛津中学校/中村学園大学 B2 姉川明子/姉川正紀 ●DLP	高等学校芸術(工芸)の新学習指導要領に準拠した題材開発実践 東京学芸大学附属高等学校 C2 尾澤勇 ●DLP
10:55 (移動)	和洋女子大学	小城市牛津中学校/中村学園大学	東京学芸大学附属高等学校
11:00	工作・工芸教育におけるデザイン的思考 長岡造形大学(非) A3 佐藤真帆 ●DLP	子どもの美的経験における比喩的イメージの活用と課題 —非命題提案からはじまる題材実践を中心に 東京学芸大学附属小金井小学校 B3 立川泰史 ●DLP	現代中国の内モンゴルにおける美術教科書掲載の工芸作品に関する考察 宇都宮大学大学院 C3 秀琴 ●DLP
11:25 (移動)	長岡造形大学(非)	東京学芸大学附属小金井小学校	宇都宮大学大学院
11:30	研究発表者(全員)への諸連絡		
11:45	[★昼食はご持参、または当日配布の近隣食事処等をご利用願います] 昼食・休憩(11:25~13:00/95分間)		
13:00	造形活動における相互行為分析の視座(3) —分析単位としての姿勢の変化と意味 聖徳大学 A4 奥村高明 ●DLP	デジタルメディアを取り入れた授業の一考察 —「君だけのくっぼんをつくらう」を通して 慶應義塾大学大学院 B4 直井崇 ●DLP	教科書題材「造形遊び」に関する一考察 宇都宮大学教育学部4年 C4 多胡慎平 ●DLP
13:25 (移動)	聖徳大学	慶應義塾大学大学院	宇都宮大学教育学部4年
13:30	造形表現の喜びやよさを味わい直すための手だてに関する一考察 (副題:概要文を参照) 東洋大学 A5 北澤俊之 ●DLP	ニューヨーク在住と九州在住の日本人児童の実態と図画工作学習に関する考察 学校法人西南学院小学校 B5 樋口和美 ●DLP	小・中における抽象絵画指導からの一考察 桜の聖母学院中学校 C5 相馬亮 ●DLP
13:55 (移動)	東洋大学	学校法人西南学院小学校	桜の聖母学院中学校
14:00	美術教育における日常生活の概念に関する考察 宇都宮大学 A6 本田悟郎 ●DLP	中学美術授業における映像表現の可能性 —シネリテラシーin新潟への参加・小新アカデミー賞の実践を通して 新潟市立湯東中学校 B6 甲田小知代 ●DLP	図画工作科における表現力の向上を図るための授業の実践 (副題:概要文を参照) 守谷市立松が丘小学校 C6 小林優子 ●DLP
14:25 (移動)	宇都宮大学	新潟市立湯東中学校	守谷市立松が丘小学校
14:30	休憩(14:25~/15分)		
14:40	戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(13)—「伝統文化」の記述と掲載作品に関する考察 宇都宮大学 A7 山口喜雄 ●DLP	Seraphina Lenz の『Werkstatt für Veränderung』について 名古屋市立白鳥小学校 B7 中村仁美 ●DLP	阿部七五三吉の手工教育論における教科課程案について—高等学校手工科・実業科工業、中学校作業科の事例を中心に 東京学芸大学大学院 C7 平野英史 ●DLP
15:05 (移動)	宇都宮大学	名古屋市立白鳥小学校	東京学芸大学大学院
15:10	発想の教育 —私の点生塵語(天声人語) 筑波大学名誉教授 A8 高山正喜久 ■実映機	三陸の風景とコミュニケーションしよう —三陸地方の全市町村の観光ポスター制作の授業実践を通して 釜石市立大平中学校 B8 山岸弘一郎 ●DLP	
15:35 (移動)	筑波大学名誉教授	釜石市立大平中学校	
15:40	多様なイメージと相互理解 福島大学 A9 天形健 ●DLP	鑑賞活動に見る子どもの発達に関する一考察 渋谷区立加計塚小学校 B9 藤崎典子 ●DLP	
16:05 (移動)	福島大学	渋谷区立加計塚小学校	
16:10	閉会式(発表会場 A)		
16:20	(終了・片付け・16:25会場閉鎖/移動)		
16:30	懇親会開宴(会場は研究発表会場から駅方向5分の欧風料理店。申込は当日受付にて)		
18:00	懇親会終了(予定)		

第45号 日本美術教育研究論集 2012

【 投稿および掲載要項 】

研究論集編集委員会

投稿要項

- 投稿条件： 第45回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第45号 研究論集 2012』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(5)の条件を全て満たしたものに限り、
(1) 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
(2) 投稿原稿が、研究論集の要項に適合して、書式・分量等が守られていること。
(3) 掲載料を期日(2011年11月8日)までに納入していること。(非掲載の場合は返金します)
(4) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
(5) 研究論集編集委員会において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読： A群(理論・実践研究論文)・B群(実践研究報告等)ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群ともに、本文および図版(写真・表・図等)等、英文サマリー(A群のみ)を含め、下記の文字数を守って下さい。
1頁分は、A 4横組 2段 23字×44行×2段=2024字です。
第1頁のみ第1行目から第5行目(2段取り)までに、題目(副題)・所属・氏名を記載し、本文との間に2行(2段取り)のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。
共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。〔昨年度と異なります〕
大項目 1 2 3 …、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ① ② ③ …。
- 掲載要項： A群・B群ともに原則として8頁とし、
掲載料は一般(給与を得ている内地留学生等を含む)は10,000円、院生・学生5,000円です。
2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般16,000円、院生・学生11,000円です。
増頁の上限は12頁で、一般22,000円、院生・学生17,000円です。
原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。
CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書(利用明細書のコピー等)を同封して下さい。
口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入) 郵便振込です。
加入者名：社団法人日本美術教育連合
ご依頼人：(〒)おところ・おなまえ・電話番号・所属
通信欄：例 掲載料 10,000円(一般、8頁) + 増頁分 6,000円(2頁増の場合) = 16,000円(計10頁)

〈投稿原稿〉11/8(火)必着

- 投稿切： 2011(平成23)年11月8日(火)必着。A群・B群とも、
①正1部と副4部(コピー可)計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。
投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。
ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。
なお、発行日は2012(平成24)年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校内
公益社団法人日本美術教育連合 研究論集編集委員会 宛

連絡・問合せ先

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は必ずご確認ください。
□問合せ先： 研究論集編集委員長 小林貴史：042-637-8111(代) ktakashi@zokei.ac.jp (東京造形大学)

2011 InSEA BUDAPEST 参加報告

宮坂元裕

ハンガリーは東ヨーロッパの国である。今のところ日本からブダペストへの直行便はない。エクスペディア（インターネット・航空券を発行しない搭乗券のみの予約システム）でルートを決めたのだが、成田空港で筑波大の石崎氏に会い同じ方法で決めた事が判って嬉しかった。空港から市内までの家並みを見て、生活は苦しそうであった。しかし市内には豪華な建物が並び、人々は勤勉で優しい人が多かった。

InSEA 世界大会には10人ほどの日本人が参加していた。富山大の隅氏と石崎氏の二人は、いわば国内大会であるモホリ・ナジ（現地読み）大学に割り当てられていた。6月27日（月）からの本大会会場はエトヴェシュ・ローランド大学であった。開会50分前に着くと50人ほどの列ができていた。列は100人に膨らみ、受付の列は一日途絶えることがなかった。並んだ原因は3か月前に参加費を払った人も、当日払う人も同じ列に並ばせて、振込の確認、お金の勘定、書類記入などをしていたので、平均一人10分はかかったのである。受付システムが悪いのは、社会主義の後遺症のように感じられた。その間、主催者は、平気であった。開会式も15分ほど遅れて開始された。会期中会場案内図がどこにも無かったので参加者は、毎日廊下をうろうろしていた。他学部の授業を休講にしていなかったので、会場が分散していたのも原因の一つだった。ただし、飲み物と、食事は会期中すべて無料であった。大会のテーマは「時間・空間・教育」であった。会議はほとんど英語で進行していたので、ハンガリーの参加者は途中から帰る人もいた。2日目には茂木一司氏と手塚千尋氏が率いる学生集団の KARUTA をテーマとしたワークショップがあった。メディア機器を駆使し即座にその内容をインターネットで世界中に発信していた。内容もよかった。参加者の笑顔が忘れられない。

ブダペスト大会は61カ国から約500組の発表、91のセッション、13のシンポジウム、17のワークショップがあったと公式発表された。印刷物は268ページの発表概要集と60ページほどのダイジェストの2冊であった。基調提案は「芸術と科学の共通基盤」「人類学や社会学から見た美術教育」「教育評価」などであった。展示会場には、テキストに日本の漫画家の原画を用いたものがあり、漫画の東ヨーロッパにまでの広がりに驚いた。

閉会式で、次回、第34回世界会議はオーストラリアのメルボルンで2014年7月7日～11日まで開催されると発表された。またしても日本では授業の最も大切な時期と重なり、団体で参加することが困難となった。今から計画を立ててぜひ、それぞれの会員の努力で参加いただきたい。

ブダペストの印象は、社会主義から脱皮して間もない国での国際会議は、開催した勇気は認めても、経験不足で無理があった。オーストラリアから来ていた人々は、「OSAKA はよかった。次回、我々メルボルンは、もっとうまくやる」と言っていた。

英語が主流であるから、英語力を鍛えた日本美術教育連合の会員が、とにかく多数参加し、日本人の存在を世界に認めさせなければならないと痛感した。

1. 第45回日本美術教育研究発表会 開催迫る！

10月16日(日)に行われる、第45回日本美術教育研究発表会(文部科学省後援)が東京都板橋区加賀の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。詳しくは前掲のご案内をご参照ください。本年度は25件の研究発表が予定されています。広く日常的な実践のなかで児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・歴史的背景など科学的な精査から組み立てられた研究まで、多彩な発表が展開されることが期待されます。

本会は参加費無料の開かれた発表会です。連合の会員の皆様はもちろん、研究関係諸氏、同僚や学生のみなさんに大いにご参加いただきたいと思います。

■発表者・参加者の皆様へお願い

(1) 発表者の皆様へ

- ・一人あたりの持ち時間は25分です。発表時間20分、協議時間5分ということで時間配分をお願いします。機器類の準備点検などで時間不足にならないように、事前の確認をよろしくお願いします。
- ・発表資料を配布される方は、50部程度ご用意ください。
- ・液晶プロジェクターを使用される方は、各自でパソコンとケーブルをご用意ください。
- ・午前の部終了直後11:30より「研究論集」執筆関係の連絡などいたしますので、忘れずにご参加ください。

(2) 発表者・参加者の皆様へ

- ・昼食につきましては、お弁当などをご持参なさるか、近隣の食事処をご利用ください。

■懇親会のご案内

研究発表会終了後、ご参会の皆様で懇親会をもちたいと思います。下記のように計画しておりますので、会員の皆様はもちろん一般の参加者の皆様も一緒に、情報交換や懇親の機会にしましょう。

*時間 研究発表会終了後 16:30より(17:45終了予定)

*会場 東京家政大学近くの欧風料理店(詳細は当日連絡)

*会費 3000円

2. 日本美術教育連合主催「造形・美術フォーラム」 予告

テ ー マ 「美術教育の行方と公益法人の役割」

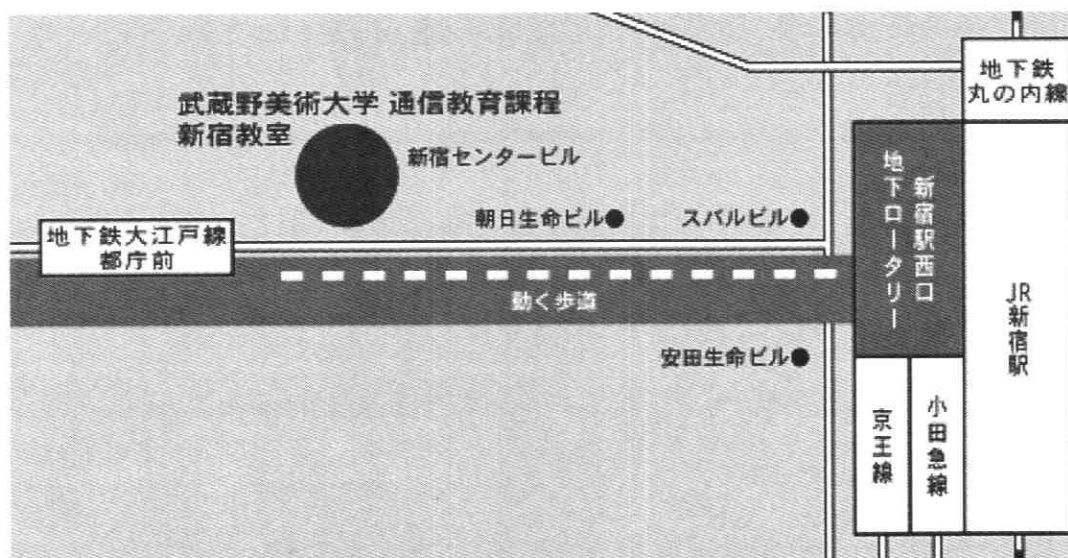
講 師 水 島 尚 喜 (日本美術教育連合・コーディネーター) 他

日 時 2011年11月13日(日) 午後

会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト (新宿教室)

東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル9階
(JR新宿駅西口より徒歩5分)

参 加 費 無 料 会員以外の方もご参加いただけます。



新宿駅から見て、モード学園のクックンタワーの次にある54階建てのビルの9階です

3. 役員改選予告

平成23年11月20日投票用紙発送、12月12日投票締め切り（厳守、当日消印有効）

4. 事務所移転のお知らせ

公益社団法人日本美術教育連合は8月19日をもって、主たる事務所を東京都文京区本郷に移転いたしましたのでご連絡申し上げます。

事務所新住所

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

5. 平成23年度（2011年度）会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

平成23年度会費 5,000円 を納入してください。

納入期限 2011（平成23）年9月1日（木）

※期限が過ぎておりますので、お早めに納入してください。

会費未納の皆様は、下記まで年会費 5,000円を郵便振替にて納入してください。

（社）日本美術教育連合 郵便振替 00170-1-86036

※期限が過ぎておりますので、お早めに納入してください。※

※インターネットバンキングでもお支払いいただけます※

▲3年以上の会費未納の皆様へ

*平成23年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

*今回の納入のお願いと行き違いで納入済みの方には、失礼をお許しください。

*お問い合わせ：事務局長 西村 德行（筑波大学附属小学校）まで

TEL+FAX 03-3946-1962（図工部直通）

E-mail tnishimura@elementary-s.tsukuba.ac.jp